

「今週の国際宇宙ステーション(ISS)」

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

- ☆最初のISS構成要素打上げから2209日経過しました
- ☆第10次長期滞在クルーのISS滞在は53日経過しました
- ☆ISS動向

第10次長期滞在クルーのリロイ・チャオとサリザン・シャリポフ両宇宙飛行士は、12月4日にISS滞在50日目を迎えました。

先週ふたりは、エレクトロン(酸素発生装置)のフィルタ・カートリッジの再生など定期メンテナンス作業を行って過ごしました。

今月は、プログレス補給船(16P)で食料、燃料、衣類などをISSに運ぶ予定ですが、その搭載内容を決定するために、ふたりは食料の在庫状況確認とコンピュータシステムの点検を行いました。16Pで運ばれる荷物には3台のノートパソコンも含まれます。

また、ふたりはISSにドッキングしているプログレス補給船(15P)に不要品を積み込むなど、16Pの到着準備を行っています。15Pは12月23日午前4時34分にISSから分離し大気圏に突入させ、南太平洋上に安全に投棄する予定です。

16Pはカザフスタンのバイコヌール宇宙基地より12月24日午前7時19分に打ち上げられ、ISSには12月26日午前9時05分に到着する予定です。



ピアース(ロシアのドッキング室)内のチャオ(右)とシャリポフ(左)両宇宙飛行士



「ユニティ」(結合モジュール1)内のシャリポフ宇宙飛行士

「スペースシャトル飛行再開に向けて」

☆宇宙飛行士救出訓練実施

米国時間12月1日に、ケネディ宇宙センター(KSC)39A発射台から、7人の宇宙飛行士と7人の支援作業員を退避させ、病院へ搬送するまでの訓練が実施されました。

この訓練は、有毒燃料の漏れ及び火災が発生して宇宙飛行士2人と作業員4人が負傷して動けなくなったという想定で実施されました。

約1.6km離れた場所で待機していた消防士とレスキュー隊員が射点へ急行し、保護服と約27Kgの生命維持装置を身につけた状態で、高さ約59mの階段まで階段を駆け上り、消火システムからの水が噴射して視界が悪い中、14分間で全てのメンバーを救出しました。

その後、負傷したメンバーはカートと担架で地下の待避壕へ運び込まれ、3台のM113装甲兵員輸送車でヘリポートへ急送し、それぞれ3箇所病院へヘリコプターで運ばれました。

今回の訓練では人が乗って降下はしませんでした。発射台から約366m離れた場所まで最大時速88.5kmで脱出できるスライドワイヤー式のバスケットが発射台に設置されていました。



数十万リットルという放水の中、射点から退避する



バスケット降下操作



地下の待避壕へ



M113に乗ってヘリポートに向かう ヘリコプターで病院へ



「インフォメーション」

☆「見上げる宇宙から使う宇宙へ」宇宙の利用を考えるシンポジウム開催のお知らせ

「見上げる宇宙から使う宇宙へ」をテーマに、衛星放送・通信、気象観測、カーナビゲーションなど私たちの日常生活に欠かせない社会インフラとなっている宇宙利用分野の実例を紹介するとともに、今後の宇宙利用のアイデアや新規ビジネス機会を探る、「宇宙の利用を考えるシンポジウム」が開催されます。非宇宙分野からの宇宙ビジネスへの実現可能性などについての講演もありますので、是非ご参加下さい。

- 日時: 2004年12月16日(木) 午前10時00分～午後6時00分
- 場所: 品川プリンスホテル エグゼクティブタワー5F
〒108-8611 東京都港区高輪4-10-30 TEL: 03-3440-1111
- 申込み: 12月13日(月)までに下記ページから申し込み(入場無料)
申込み先・問合せ先: 株式会社プライムインターナショナル
TEL: 03-5467-5539 FAX: 03-5467-5538 専用HP: <http://www.jaxa.jp/spacebiz/enterprise/>

●主催: JAXA

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。

